

## 唐桑半島ビジターセンター改修及びからくわ荘跡地の活用方針について

### 1 唐桑半島ビジターセンターの改修

#### （1）目的

老朽化したビジターセンターを唐桑オルレや潮風トレイル、キャンプなどアウトドアの中核となる施設としてリニューアルし、キャンプやトレッキングなどの愛好者の利便性・満足度を高め、さらなる誘客を図る。

#### （2）経緯

リニューアル後の唐桑半島ビジターセンターの役割については、これまで気仙沼観光推進機構の枠組みのなかで、唐桑地区の観光施策を検討する唐桑観光活性化委員会で議論を重ねてきた。同委員会では唐桑オルレや潮風トレイルなどこれまでの取り組みから、アウトドアを唐桑地区の観光戦略の柱に据え検討を続けている。令和2年にはアウトドア総合メーカーの株式会社モンベルと本市が包括連携協定を締結し、翌3年にはその子会社に委託した「気仙沼市アウトドアツーリズム調査業務報告書」で、ビジターセンターのリニューアルや、からくわ荘跡地の活用について有益な提案があり、議論を進めるうえでの下地として大いに活用した。

これらを踏まえ、以下の整備方針で議論がまとまった。

なお、リニューアル後の運営については、これまで運営を受託してきた唐桑町観光協会の後継団体である気仙沼市観光協会が受託する意向であり、市観光協会全体の取り組みとして体制整備を進めている。

#### （3）整備方針

昭和59年建築の鉄筋コンクリート造の建物（468㎡）の躯体を活かしつつ内装・外装を木材で覆いアウトドアの拠点に相応しい雰囲気のリフォームするとともに、以下の3つの機能を整備する。

- ① 来訪者が休息するレストハウス機能
- ② 手ぶらキャンプにも対応できる機材レンタルやバーベキュー食材などの販売、キャンプやトレッキング利用者のためのシャワー施設などを整備した来訪者の利便を図る機能
- ③ 三陸ジオパークとしての唐桑の地形や植生、津波などの自然災害、民俗や漁撈文化などを解説し、トレッキングコースを歩く来訪者の知的好奇心を刺激するオリエンテーション機能

なお、唐桑半島ビジターセンターに併設する津波体験館は、6月末のビジターセンター休館とともに閉館となる。これまで津波体験館が担っていた津波の記憶・教訓の伝承という機能は、東日本大震災遺構・伝承館へと集約されるが、リニューアル後は三陸ジオパークである唐桑半島で、海の恵みを受けながら生きる人々の営みと表裏一体となる津波災害の脅威や発生のメカニズム、津波の記録をVR（映像による仮想現実）などの技術を用い伝えていく。

#### (4) 整備スケジュール

令和4年6月末 ビジターセンター休館  
8月 実施設計完了  
9月 改修工事契約入札 発注  
令和5年4月 リニューアルオープン

#### (5) 財源 ※令和4年4月内示

- ・ 県支出金 228,993千円（工事費，展示設計施工委託費，備品購入費）
  - 内訳）自然環境整備交付金 50,000千円 ※環境省→県経由
  - 唐桑半島ビジターセンター補助金 178,993千円

## 2 国民宿舎からくわ荘跡地の活用

### (1) 整備方針

国民宿舎からくわ荘跡地については、御崎地区が持つポテンシャルを最大限に活かし、唐桑半島ビジターセンターの改修を含め包括的な整備を進めることでこれまで唐桑観光活性化委員会で議論を進めてきた。

唐桑オルレが好評であること、ソロキャンパーの利用が主体である御崎野営場がコロナ禍を背景とした近年のアウトドアブームにより利用者数が急増していることなどから、からくわ荘跡地をこれまで利用が少なかった初心者やファミリー、グループ向けのキャンプ場として整備を行うことでまとめ、現在準備を進めている。

跡地をオートキャンプ設備、手ぶらでのキャンプ、バーベキューなどに対応する気軽なキャンプ場として整備することで、上級者やソロキャンパーが利用する御崎野営場エリアとともに、多様な客層が楽しめる総合キャンプ場としての位置づけとなる。

運営については御崎野営場管理の実績を有し、収益事業の強化を目指す気仙沼市観光協会が意欲を示しており、中核施設となるビジターセンターとあわせて担う方向で協議が進んでいる。

### (2) 整備手法

- ・ 整備手法については、各種事例を調査し費用対効果に優れた整備を検討中
- ・ 予算については活用可能な各種補助制度を調査中